

海岸の新しい利用×新たな価値を提供

# 松原海岸で、鍋を投げて、鍋を食べる

「海水浴場」という視点から離れた新たな“価値”“枠組み”の創造  
人々に魅力を提供していく空間へのリ・デザイン

# 鍋

## 熊本県玉名市

鍋松原海岸活性化検討プロジェクトチーム

## 「平成鍋合戦」 競技内容

- 鍋をどれほど遠くへ飛ばせるかを競い合う競技
- 日頃思っていること(願い事や上司への不満、家族への感謝等)を鍋に叫び込めて海に投げ入れる競技
- 鍋による海水運び大会
- 鍋合戦を楽しんだ後は、参加者全員で、夕日を眺めながら「鍋料理」を食べる！

※参加料で隣接する物産館から玉名地域の旬の食材を調達し財源の循環を目指す

## 1. 地域課題

合併により周辺部になった施設(公共空間)を復活させるアイデア



### <鍋松原海岸の現状>

- 夏季以外には利用がない(表1)。
- ・海水浴場として開放している時期(毎年40日程度)は1日平均で150人程で推移。
- ・それ以外の時期に海岸は活用されていない。

表1 鍋松原海岸 2018年イベントカレンダー(玉名市役所地域振興課より)

開始日	終了日	件名	備考
6月24日	6月24日	鍋松原ボランティア清掃	60名参加
7月1日	7月1日	九州看護福祉大学ボランティア清掃	サッカー部顧問:安藤先生
7月1日	7月1日	県地域振興局 地引網体験	
7月2日	7月2日	ビーチサッカー九州リーグ	
7月12日	7月12日	海開き安全祈願祭	
7月15日	7月15日	ペットボトルいかだづくり、サバイバルキャンプ	
7月22日	7月22日	岱明SUN-CUP	
7月29日	7月29日	テレビ収録	アウトドアフェスに伴う告知用テレビ撮影
8月27日	8月27日	ビーチdeパレー	
10月1日	10月1日	キタクマ×アウトドアフェス	玉名市長杯ビーチサッカーフェスタウオーターサバイバルゲーム

## 2. 「鍋」を活用した競技を実施する理由

・鍋は一般的な家庭の台所に必ず存在するありふれた調理器具。海岸という非日常の空間で競技用具として 新たな意味を投影することで、多くの人が「鍋」に対する見方を変え、本政策によって展開する新たな競技を楽しんでもらえる。

・鍋料理は世界共通であり、グローバルな参加者を募ることもできる。身近な道具である鍋を活用した競技は、世界とつながる扉・架け橋となる可能性を秘めている。

ちなみに・・・ 「鍋」という地名の由来

景行天皇(12代天皇)に遡る。景行天皇の肥後巡幸の際、玉名市に隣接する長洲町腹赤地区で「腹の赤い魚」を献上した際、この地からは鍋を差し出したことが由来。



### <アイデアづくりの条件>

- (1) 季節と強くリンクしない
- (2) 継続できる実行可能性の高さ
- (3) 活性化の起点となる催しの開催
- (4) 玉名との関連性の強いものを活用

### <レジャー変化:海離れ>

海水浴客をターゲットにしているだけでは、海岸の活性化は望めない。

## 3. 実現の流れ

### ①プロトタイプ与设计とブラクティス

・鍋合戦及び鍋を食べる会をデザインし、地域団体や地域住民等に呼びかけ、参加を募る。

### ②プロトタイプのリファイン(再設計)

・毎週末ごとに実践でき、課題改善は短期間に行うことで、本取り組みの完成度を高める。実験を行うことそのものが、「鍋松原海岸」を知らない人々の認知を拡大させることにつながり、海岸の新しい利用形態を広く周知してく。

### ③最終的なデザイン

・コンセプトを最も的確に表現するイベントの最終デザインを行う。一定の集客が見込めるようになった後、隣接する周辺施設管理者に取組みを委譲することで、鍋松原海岸を「鍋海岸」として安定的に運用、地域での持続可能な取組みとなるようなデザインを目指す。